

彼方「かなた」

校長通信

H24.10.1

Vol.22

【ちよつとうれしいお話】

「学校は何するところ？」と聞かれたら十人が十人とも「勉強する場所！」と答えます。では、「何の勉強をするの？」と聞くと、これが実に様々です。「教科」「人の生き方」「部活」等、一言ではなかなか語れません。

私たちの学校では、「自主貢献」という学校教育目標に向けて取り組んでいるので、「学校は何を学ぶ場所？」と聞かれたら「自分から誰かのために自主的に考え・行動し、助け合うことを学ぶ場所です。」と答えたいと思っています。

でもこの「助け合って生きる」というのがなかなか難しい。毎日意識して取り組んでいかなければ、進んで親切にし、助け合う生徒は育ちません。教科の授業を通して、助け合うことを学び、みんなで分かち合ったり、できたりする喜びを体感させていかなければならないし、全ての教育活動がそのことを意識して展開されることが必要だと考えます。それにより、少しずつですが生徒の言動に、私たち教職員の姿に変化が現れてくるのです。

そんな子供たちや先生方の最近あったちよつとい話をご紹介したいと思います。

(何かやることは?)

葛南英語スピーチコンテストで3年生が受付係の仕事をしていました。話を聞くと、「何かお手伝いす

ることはありますか？」と佐々木先生に聞きにきて、そのまま受付のお手伝いを自分から始めたのだそうです。その後、ドアマンを行ったり、積極的に自分のできることを取り組んでいました。その姿を見た他の中学校の先生が大変感心して、私にその経緯を話してくれたのです。

(挨拶は自分から)

校内では、生徒より先に挨拶の声をかけるように心がけているのですが、私より先に、一年生の女子が二人「おはようございます！」と笑顔で挨拶をしてくれました。実にさわやかな挨拶だったので、思わず名前と学級を覚えてもらいました。その後、二人は、すれ違う先生に積極的に挨拶していました。昼になると同じような場面にまた遭遇しました。

職員トイレのドアを開けて廊下に出ると二年生が直ぐに「こんにちは！」と声をかけてくれました。最近、私より早く挨拶してくれる子が増えたような気がするのは、私だけでしょうか？

(落ち着いた学校ですねー！)

本校が校長会の会場になりました。先生方や生徒のみんなに、おもてなしの心でというお願いをしました。参加した校長先生方から「落ち着いた学校ですね」「本当に気持ちのよい挨拶をしてくれる学校ですね」「先生方の対応や挨拶がスゴイですね」というお褒めの声を沢山いただきました。うれしい限りです。会議中も静かで、廊下を歩いていた生徒が、指を口に当てて「シー！」と仲間に働きかけている姿も新鮮でした。

トイレを使った校長先生方は、口々に「とっても

きれいで、掃除が行き届いてますね」「階段に綿埃がひとつもないのはスゴイ！うちの学校の階段もこういうふうになって欲しいんだけどな」と話してくださった先生方もいました。ありがとうございます。

(本当に助かります)

夕方。指導課の先生から電話を頂きました。「市内音楽発表会でいろいろな係の抜けがあるところを湖北中の遠藤先生に相談したところ嫌な顔ひとつしないで、積極的にお手伝いすると言って頂き本当に助かりました。」というお礼の電話でした。わざわざ電話してくださったのは、本当にうれしくて仕方がなかったのだそうです。その話を聞いた私も気持ちがあがりました。

(いい雰囲気ですね)

学校に出入りしている業者さんの一人が一言、「グラウンドで走っている生徒さんの雰囲気、とってもいいですね！」と声をかけてくれました。「選手同士が励まし合ったり、挨拶してくれたり、先生方の見守る感じもいい」というのです。「こういうムードのチームは、強いでしょう？」とも。この声かけもちよつとうれしかったです。

何気ない一言や相手を思いやる行動のすこさは、このように人の心を揺り動かしてくれるのです。これからもアンテナを高くして、こういう「自主貢献」する言動を拾っていききたいと思います。